

平成 25 年度

「全国学力・学習状況調査」

— 結果の分析と今後の取組 —

大阪市立淡路中学校

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成 25 年4月24日(水)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学)に関する調査」と「児童生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになつた現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年の原則として全児童生徒
- ・淡路中学校では、3 年生 96名

3 調査内容

(1)教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語 A・数学 A】	主として「活用」に関する問題 【国語 B・数学 B】
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

(2) 児童生徒質問紙調査

児童生徒質問紙調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査

平成25年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

大阪市立淡路中学校

生徒数

96人

結果の概要

今年度の平均正答率については、国語A、国語Bがともに大阪市の平均を超える。これまでの学習理解度に関する課題を一定解消できた。また、数学A、国語Bについては依然として大阪市の平均、全国の平均との差があるものの、その差は、小さくなってきており、課題はあるものの、一定の成果が認められる。一方、平均無解答率については大阪市の平均と比べ、国語A・B、数学Aで、低くなっている。解答に際して、最後まで粘り強く取り組もうとする姿勢が結果として現れたと考える。

生徒質問紙の回答からは、規範意識の醸成などの面で改善の成果が見られる。その一方で、基本的生活習慣や家庭学習については、改善している結果も見られるものの、大阪市や全国の平均と比べると、本校生徒の家庭での過ごし方に、大きな課題がある。今後も、基本的生活習慣の改善に対しての働きかけが、必要であると考える。

平均正答率と平均無回答率は、以下のとおりである。

平均正答率 (%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	73.6	62.6	54.1	35.3
大阪市	72.2	61.0	59.6	37.1
全国	76.4	67.4	63.7	41.5

平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	2.0	2.7	5.6	21.4
大阪市	3.6	4.7	7.2	20.9
全国	2.4	2.8	5.3	16.7

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

<これまでの取組の成果>

- 年間を通じて組織的、計画的な授業研究を実施することにより、生徒の授業に対する意欲・関心は高まっている。また、研究支援事業を活用し校内授業研究として「協同学習(H23)」「言語活動の充実(H24)」「ICTの活用(H25)」に取り組むことによって、授業中に「グループで調べたり、自分の意見を発表している」などの意識が高まり、授業に対して積極的に取り組む生徒の割合が増加した。
- 規範意識の醸成という面での成果として、遅刻者数が年々減少している。また、授業を集中して受けることができるようになってきたことの成果として、「授業はよくわかる」と回答する生徒の割合が増加し、これらの成果として、平均正答率の改善がみられると考える。
- 学級集団づくりや道徳教育の成果として、自尊感情が高まり、自分のことを肯定的に捉えたり、周りの人を大切に思う意識が育っている。また、成就感、達成感、自己肯定感を感じている生徒の割合が高く、行事や総合的な学習の時間・委員会活動・部活動・サークル活動などの成果と考えられる。

<今後取り組む課題>

- 習熟度別少人数授業をより一層工夫するなど、引き続き、授業研究に取り組む。
- 放課後の自主学習タイムやデイリーライフの活用など、引き続き、家庭学習への支援に取り組む。
- 自分の将来に夢や希望が抱けるような取り組みを、引き続き、工夫・充実する。
- 朝ごはんを食べる、起床時間などの基本的生活習慣や家人とのふれあいの時間の改善、また、インターネットや携帯(スマホ)の使い方などに、保護者の協力を求める働きかけに引き続き取り組む。

【国語】

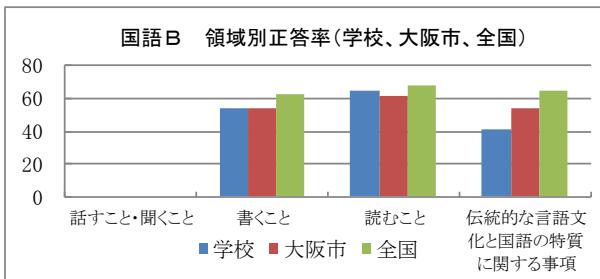
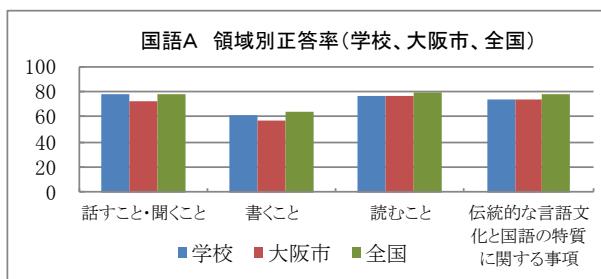
【結果の概要】

ほぼ全ての項目で大阪市平均を上回り、全国平均にも近づいている。特に「話すこと・聞くこと」は全国平均を上回った。一方、B問題の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に、課題が残った。

「国語の勉強は好きだ」という生徒はやや低いものの、「国語の授業の内容はよくわかる」という生徒は全国平均に近く、授業の内容をしっかり理解できていることがわかる。また、「書く」ことを意識している生徒の割合は高い。

A 問 題		平均正答率(%)			
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと 書くこと 読むこと 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	学校	大阪市	全国	
		4	78.4	73.1	
		4	61.1	57.3	
		6	77.3	76.8	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		18	74.1	73.9	
				77.5	

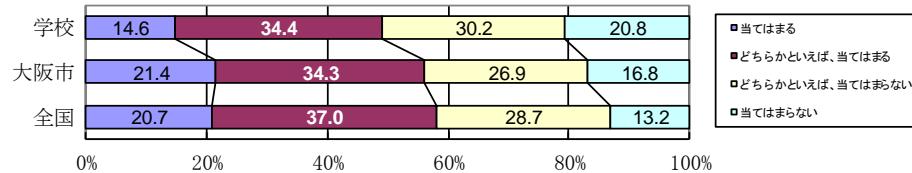
B 問 題		平均正答率(%)			
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと 書くこと 読むこと 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	学校	大阪市	全国	
		0	—	—	
		3	54.2	54.0	
		8	65.2	61.9	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		1	41.7	54.2	
				64.6	



国語に関する「生徒質問紙」

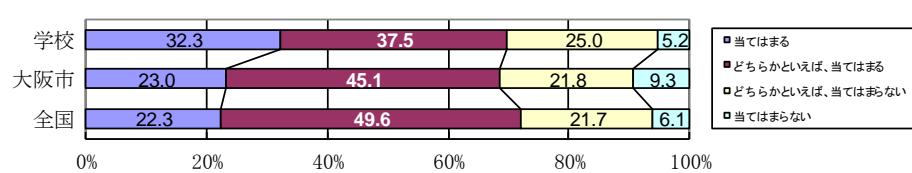
I 53 II 52 III 63

国語の勉強は好きですか



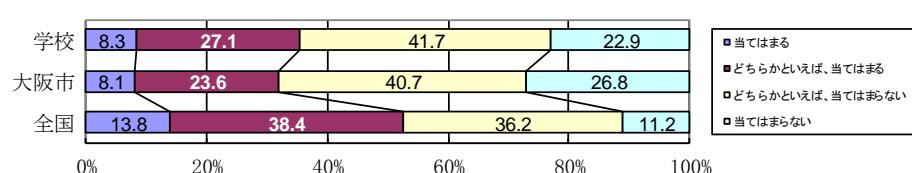
I 55 II 54 III 65

国語の授業の内容はよくわかりますか



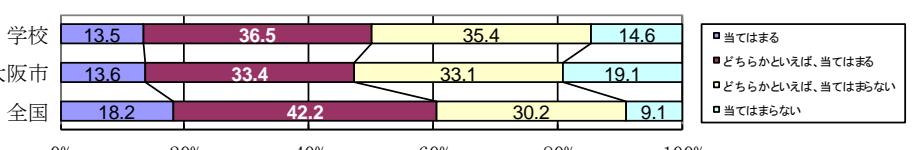
I 58 II 57 III 68

国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



I 60 II 59 III 70

国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか



【成果と課題】

・年間を通じて組織的、計画的な授業研究を実施することにより、生徒の授業に対する意欲・关心は高まってきた。また、研究支援事業を活用し校内授業研究として「協同学習(H23)」「言語活動の充実(H24)」「ICTの活用(H25)」に取り組むことによって、授業中に「グループで調べたり、自分の意見を発表している」などの意識が高まり、授業に対して積極的に取り組む生徒の割合が増加した。

・規範意識の醸成という面で、授業を集中して受けることができるようになってきたことの成果として、「授業はよくわかる」と回答する生徒の割合が増加し、これらの成果として、平均正答率の改善がみられると考える。

【今後の取組】

・習熟度別少人数授業をより一層工夫するなど、引き続き、授業研究に取り組む。

【数学】

【結果の概要】

A問題についてはすべての項目で大阪市平均を下回り、課題が残った。その一方で、B問題については関数と資料の活用で大阪市平均を上回る結果となったことは大きな成果である。

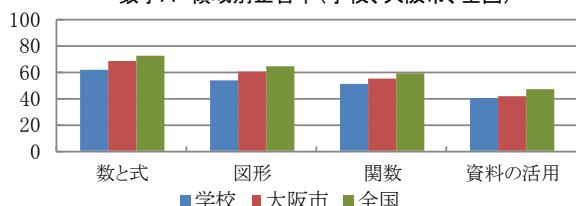
「数学が好きだ」、「授業の内容はよくわかる」では、大阪市平均との差があるものの、数学を「普段の授業の中で活用できないか考える」生徒は大阪市平均を上回っており、苦手意識はあるものの、授業への積極的な参加の意識がうかがえる。

A問題

平均正答率(%)

		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と式	11	61.5	68.6
	図形	12	54.0	60.8
	関数	9	51.4	54.7
	資料の活用	4	39.8	42.3

数学A 領域別正答率(学校、大阪市、全国)

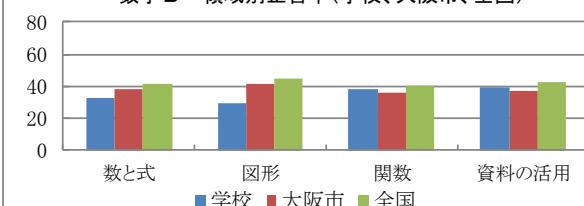


B問題

平均正答率(%)

		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と式	5	32.3	37.6
	図形	2	29.2	41.0
	関数	6	37.7	35.4
	資料の活用	3	39.6	37.1

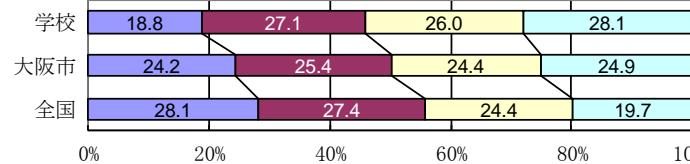
数学B 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



数学に関する「生徒質問紙」

I 73 II 62 III 73

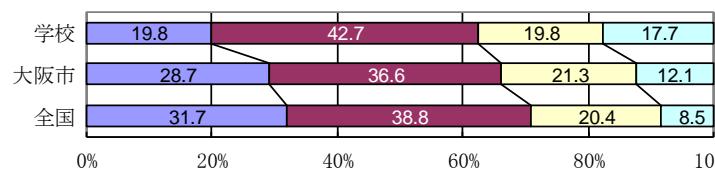
数学の勉強は好きですか



■当てはまる
■どちらかといえば、当てはまる
■どちらかといえば、当てはまらない
■当てはまらない

I 75 II 64 III 75

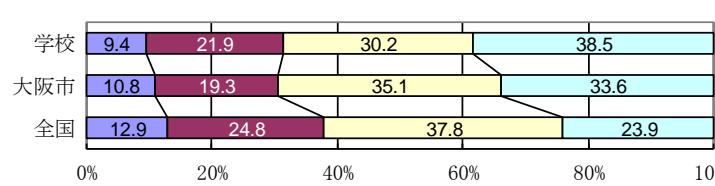
数学の授業の内容はよく分かりますか



■当てはまる
■どちらかといえば、当てはまる
■どちらかといえば、当てはまらない
■当てはまらない

I 78 II 67 III 78

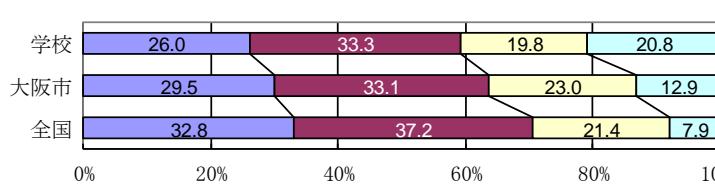
数学の授業で学習したことと普段の生活の中で活用できないか考えますか



■当てはまる
■どちらかといえば、当てはまる
■どちらかといえば、当てはまらない
■当てはまらない

I 81 II 70 III 81

数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか



■当てはまる
■どちらかといえば、当てはまる
■どちらかといえば、当てはまらない
■当てはまらない

【成果と課題】

・年間を通じて組織的、計画的な授業研究を実施すること、また、研究支援事業を活用し校内授業研究として「協同学習(H23)」「言語活動の充実(H24)」「ICTの活用(H25)」に取り組むことによって、授業中に「グループで調べたり、自分の意見を発表している」などの意識が高まり、授業に対して積極的に取り組む生徒の割合が増加した。特に、昨年度、研究授業で取り組んだ「確率」の授業などの成果として、B問題の「関数」と「資料の整理」で、大阪市平均を上回ったことは大きな成果である。

・規範意識の醸成という面で、授業を集中して受けることができるようになってきたことの成果として、平均正答率の改善がみられると考える。しかしながら、大阪市や全国平均と比較すると「数学が好き」や「授業がわかる」には課題が残った。

【今後の取組】

・習熟度別少人数授業をより一層工夫するなど、引き続き、授業研究に取り組む。

基本的生活習慣・自尊感情・規範意識

【結果の概要】

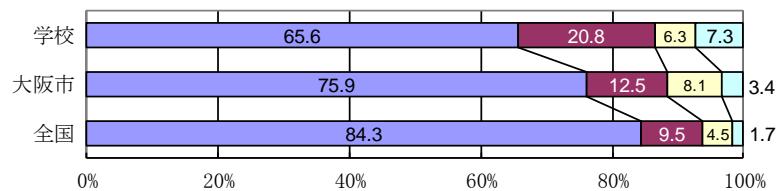
「朝食を毎日食べている」生徒の割合が、全国、大阪市と比べてもかなり低いなど、基本的生活習慣については引き続き課題がある。

自尊感情については、「自分にはよいところがある」と答えていた生徒の割合が、大阪市平均を上回るとともに、全国平均よりも高く、学校行事や様々な取り組みの成果であると考える。

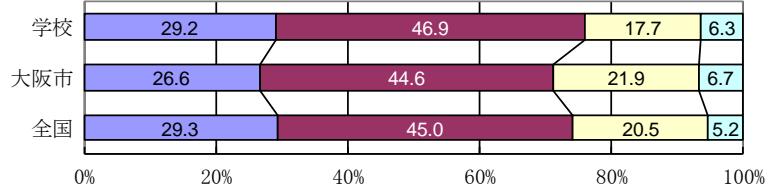
規範意識については、「学校の規則を守っている」生徒は、大阪市平均を上回り、全国平均よりも高く、生活指導での様々な取り組みの成果であると考える。

質問番号	質問事項
------	------

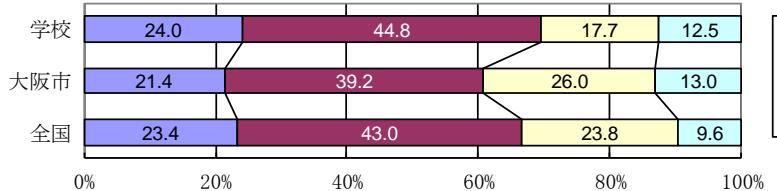
I 1	II 1	III 1
朝食を毎日食べていますか		



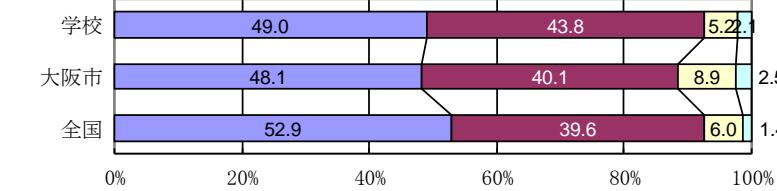
I 2	II 2	III 2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか		



I 6	II 6	III 6
自分には、よいところがあると思いますか		



I 44	II 41	III 45
学校の規則を守っていますか		



【成果と課題】

- 学級集団づくりや道徳教育の成果として、自尊感情が高まり、自分のことを肯定的に捉えたり、周りの人を大切に思う意識が育っている。また、成就感、達成感、自己肯定感を感じている生徒の割合が高く、行事や総合的な学習の時間・委員会活動・部活動・サークル活動などの成果と考えられる。
- 規範意識については、生活指導での様々な取り組みの成果であると考える。また、遅刻者数が年々減少している。さらに、授業を集中して受けることができるようになってきたことの成果として、「授業はよくわかる」と回答する生徒の割合が増加し、これらの成果として、平均正答率の改善がみられると考える。
- しかしながら、その一方で、「朝食を毎日食べている」生徒の割合が、全国、大阪市と比べてもかなり低いなど、基本的生活習慣については引き続き課題がある。

【今後の取組】

- 学級集団づくりや道徳教育の充実、きめ細やかな生活指導に、引き続き、取り組む。
- 朝ごはんを食べる、起床時間などの基本的生活習慣や家人とのふれあいの時間の改善、また、インターネットや携帯(スマホ)の使い方などに、保護者の協力を求める働きかけに引き続き取り組む。

家庭学習・読書・学びの質の改善：言語力の育成

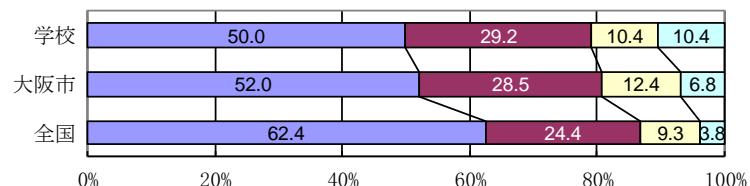
【結果の概要】

家庭学習については、家で学校の復習をしている生徒の割合が大阪市平均を上回るなど、家庭学習への支援の成果と考える。しかし、家で学校の宿題をしていない生徒の割合は、大阪市・全国を上回り、生活習慣が確立せず、そのことが家庭での学習習慣の定着につながらないという生徒の改善が課題として残った。「読書は好き」に当てはまらないと答える生徒の割合が高いことも引き続き課題として残った。

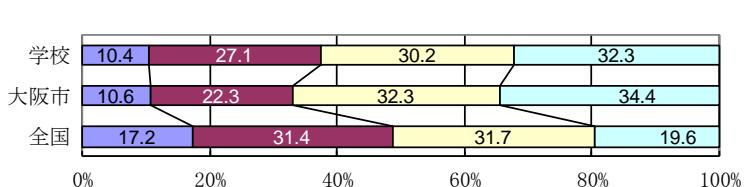
学校の授業では、「話し合う活動をよく行っている」と回答する生徒が大阪市・全国の平均を上回っていることは、校内授業研究として、「協同学習」や「言語活動の充実」「ICTの活用」に取り組んだ成果と考える。

質問番号	質問事項
------	------

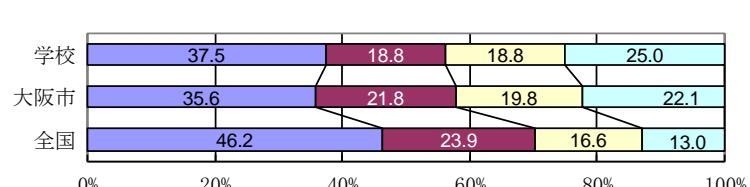
I 30 II 25 III 35
家で、学校の宿題をしていますか



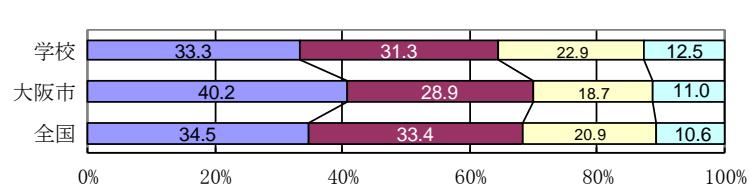
I 32 II 27 III 37
家で、学校の授業の復習をしていますか



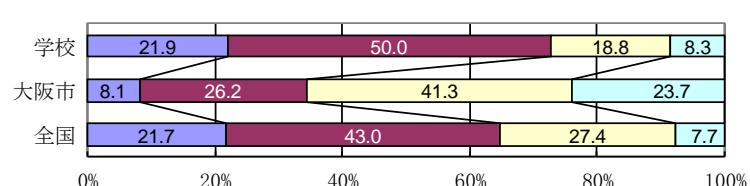
I 56 II 55 III 66
読書は好きですか



I 52 II 51 III 61
学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりすることは難しいと思いますか



I 50 II 48 III 57
普段の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか



【成果と課題】

- 放課後の自主学習タイムやデイリーライフの活用などが、家庭学習への支援の成果と考える。しかし、家で学校の宿題をしていないなど、生活習慣が確立せず、そのことが家庭での学習習慣の定着につながらないという生徒の改善が課題として残った。「読書は好き」に当てはまらないと答える生徒の割合が高いことも引き続き課題として残った。
- 年間を通じて組織的、計画的な授業研究を実施することにより、生徒の授業に対する意欲・関心は高まってきており、
- 研究支援事業を活用し校内授業研究として「協同学習(H23)」「言語活動の充実(H24)」「ICTの活用(H25)」に取り組むことによって、授業中に「グループで調べたり、自分の意見を発表している」などの意識が高まり、授業に対して積極的に取り組む生徒の割合が増加した。

【今後の取組】

- 放課後の自主学習タイムやデイリーライフの活用など、引き続き、家庭学習への支援に取り組む。
- 校内研究授業として「協同学習」「言語活動の充実」「ICTの活用」等テーマを決めて学びの質の改善に取り組むなど、引き続き、授業の工夫・充実に取り組む。